

～東京近郊の子どもを持つ主婦 400 人に聞く～

【第2回】『世代をつなぐ食』その実態と意識

～家庭の食費、月平均 ¥62,260 で前回調査(2003年)より ¥6,580 減～

安全性と節約志向で「自分で作る」が急増中

「もったいない」派がマジョリティ(92.8%)、しつけのトップも「食べ物を粗末にしない」(84.8%)

食生活の実態

- 家庭の食費は月「4～6万未満」がボリュームゾーン(37.3%) 平均 62,260 円
前回調査(2003年)では、ボリュームゾーンは月「6～8万円未満」 平均 68,840 円
- 料理・食品、「購入する」より「自分で作る」が増加傾向
前回調査と比較して、「きんぴらごぼう」「おでん」「とんかつ」などを自分で作る人が増加
- 「自家生産(家庭菜園)」している人も増加傾向(7.3%→10.5%)
自家生産額は食費換算で年 21,480 円
- 食品を捨てることは「もったいない」と考える人が大多数(92.8%)
「作った人に申し訳ない」とした人は前回調査より大幅増(29.0%→40.0%)

食に関する意識

- 前回調査と比べて、「栄養」(+5.2%)や「安全性」(+11.5%)に関心が集まる
関心が低下したのは「家族の好み」(-6.7%)や「バラエティー」(-8.5%)
- 食の安全に「関心がある」人が圧倒的多数派(95.0%)
「とても関心がある」人は前回調査から倍増(16.3%→33.5%)
- “安全な食”のために実行していることは「原産地を確認」が 8 割(79.3%)でトップ

食育に関する意識と実態

- 食まわりの“しつけ”は「食べ物を粗末にしない」が最多(84.8%)
前回調査のトップ「いただきます、ごちそうさま、と言う」は今回 3 位
- 子どもに食事関連の家事などをさせている人が半数以上(55.8%)
第一子に食に関する家事などをさせる年齢は平均「6.0歳」、前回より低年齢化(6.8歳→6.0歳)

日本の農業に関する意識と実態

- 日本の食糧自給に対する意識、「3分の2くらい自給すべき」が約 6 割(58.0%)
- これからの“農畜水産物”に対する要望は、1 位「安全な」(98.8%)がほぼ全員
- “食”に関するニュースで印象に残ったのは「賞味期限・消費期限改ざん」(76.5%)

◇はじめに◇

農林中央金庫では、現代社会における食事環境や食事教育などの実態を探ることを目的に、03年度に母親を対象とした「世代をつなぐ食」調査を実施、以後、04年度に小中学生を対象とした「親から継ぐ食、育てる食」調査、05年度に高校生を対象とした「育つ食」調査、06年度に父親を対象とした「現代の父親の食生活」調査、07年度は独身20代を対象とした「食その実態と意識」調査と、各世代のさまざまな立場の人たちを対象として、食に関連する意識と実態を継続して調査しています。

そして09年度は、原点に立ち戻り、子どもを持つ主婦を対象とした第2回「世代をつなぐ食」調査を実施しました。第2回なので、現代の母親の食に対する意識と家庭における食事の実態を調べると同時に、03年度から約6年の歳月を経てどのように食に対する意識や実態が変化したか、前回調査と比較しながら検証作業を行いました。

◇調査結果まとめ◇

調査は、首都圏の子どもを持つ主婦400名を対象に実施されました（調査対象：首都圏在住の30～50代の主婦、調査期間：2010年2月22日～3月10日）。

調査結果で注目されるのは、**前回に比べて「自分で作る」傾向が急増した点**です。**デフレや節約志向、エコ意識などの影響も大きい**のですが、何よりも**食の安全への意識の高まりが顕著**で、**前回調査と比べて「家族の好み」や「バラエティー」よりも「栄養」や「安全」などが重視される傾向**にあります。

『食生活の実態』では、**食費は月「4～6万未満」がボリュームゾーン**（37.3%）で月平均は**6万2260円**でした。前回調査（2003年）では「6～8万円未満」が最多で月平均6万8840円だったので、**6580円の食費削減**となります。**デフレの時代を反映している**と言えるのかもしれませんが、**料理や食品を「購入する」より「自分で作る」が増えており、特に「きんぴらごぼう」「おでん」「とんかつ」などで顕著**です。また**「自家生産」も増えました**（7.3%→10.5%）。**食品を捨てることは「もったいない」と考える人が大多数**（92.8%）で、中でも**「作った人に申し訳ない」は大幅に増えました**（29.0%→40.0%）。

『食に関する意識』としては、**食の安全に「関心がある」人が圧倒的多数派**（95%）を占め、特に**「とても関心がある」人は前回調査から倍増**（16.3%→33.5%）しました。「**栄養**」（+5.2%）や**「安全性」**（+11.5%）などで**関心の高まりが目立つ**のに対し、「**家族の好み**」（-6.7%）や「**バラエティー**」（-8.5%）などは**関心がやや低下傾向**です。

『食育に関する意識と実態』では、「**しつけ**」の**首位が「食べ物を粗末にしない**」（84.8%）に入れ替わり、前回トップの「いただきます、ごちそうさま、と言う」は今回3位でした。**子どもに「家事（食事関連）をさせている」人が半数以上**（55.8%）で、**子どもに家事をさせる年齢は平均「6.0歳」、前回より低年齢化**（6.8歳→6.0歳）しています。

『日本の農業に関する意識』では、「**農畜水産物**」に対する**要望1位は「安全」**（98.8%）で、**前回調査と比べてより「安全」を重視する傾向**（94.0%→98.8%）が**顕著**です。「食」に関するニュースで印象に残ったのは「**賞味期限・消費期限改ざん**」（76.5%）「**産地偽装**」（66.8%）、「**原材料偽装**」（59.5%）などがあげられました。

以下は調査内容のダイジェストです。ダイジェストでご紹介できなかった調査項目を含め、詳細は調査報告書をご参照下さい。

I.食生活の実態

1. 食事の支度にかかる時間はどのくらいですか？

- 『朝食』の支度時間は「10～20分未満」(34.0%)が3割、平均値は「22.6分」
- 『夕食』の支度時間は「60～70分未満」(50.3%)が半数、平均値は「58.6分」
前回調査比較:『朝食』は「20.7分」→「22.6分」、『夕食』は「56.1分」→「58.6分」長くなる

1) 『朝食』の支度にかかる時間

食事の支度にかかる時間を聞いたところ、朝食の支度にかかる時間は「10～20分未満」(34.0%)という人が最も多く、以下「30～40分未満」(32.8%)、「20～30分未満」(24.0%)が続き、平均値は「22.6分」でした。

2) 『夕食』の支度にかかる時間

夕食の支度にかかるは、「60～70分未満」(50.3%)という人が圧倒的に多く、かなり差が開いて「40～50分未満」(15.8%)、「30～40分未満」(11.5%)、「90～120分未満」(11.0%)などが続きます。しかし、平均時間にすると「58.6分」と1時間をやや下回りました。

◆前回調査比較:『朝食』『夕食』いずれも2分程度増加

平均時間で『朝食』は「20.7分」→「22.6分」、『夕食』は「56.1分」→「58.6分」と、いずれも2分ほど長くなりました。

2. 家族全員が揃って食事をするのは週何回くらいですか？

- 『朝食』を揃って食べるのは週に2.3回、『夕食』を揃って食べるのは週に3.1回
前回調査比較:『朝食』平均2.2回→2.3回へ増加傾向、『夕食』平均3.3回→3.1回と減少傾向

1) 『朝食』を揃って食べる回数

週に何回、家族全員が揃って食事をするか聞いたところ、朝食は「ほとんどない」(32.5%)が最多でした。「2～3回」(27.0%)、「1回」「6～7回」(各16.0%)と続き、平均回数は「2.3回/週」です。

2) 『夕食』を揃って食べる回数

夕食では「2～3回」(43.8%)という家庭が圧倒的多数派で、2位以下は「4～5回」(17.8%)、「1回」(16.0%)、「6～7回」(15.5%)と1割台で、平均回数は「3.1回/週」です。朝食との大きな相違点は「ほとんどない」(7.0%)が大きく減った点です。

◆前回調査比較:『朝食』週平均2.2回→2.3回へ増加、『夕食』週平均3.3回→3.1回と減少

『朝食』は「6～7回」12.0%→16.0%などの増加傾向で、平均回数も2.2回→2.3回へ増えました。『夕食』では「2～3回」は37.5%→43.8%と増えたものの、「6～7回」15.8%→15.5%などが減り、平均回数は3.3回→3.1回と減りました。

3. 家族揃っての食事の時間はどのくらいですか？

— 『朝食』の平均所要時間は「22.4分」、『夕食』の平均所要時間は「49.0分」
前回調査比較：『朝食』「20.9分」→「22.4分」、『夕食』「45.7分」→「49.0分」、と増加傾向

1) 『朝食』を家族揃って食べる時間

家族全員が揃った食事の所要時間を聞いたところ、朝食では、「30～40分未満」(29.5%)が最多、以下「10～20分未満」(26.5%)、「20～30分未満」(22.8%)が続きます。「家族全員が揃って食べることはない」(16.8%)家庭も少なくなく、平均所要時間は「22.4分」です。

2) 『夕食』を家族揃って食べる時間

夕食では、「60～70分未満」(36.5%)が最も多く、以下「30～40分未満」(25.3%)、「40～50分未満」(16.3%)の順となっています。平均所要時間は「49.0分」です。

◆前回調査比較：『朝食』「20.9分」→「22.4分」、『夕食』「45.7分」→「49.0分」、と増加傾向
『朝食』は、「10～40分未満」が81.3%→78.8%と若干低くなり、平均所要時間は「20.9分」→「22.4分」と微増。
『夕食』は、最多の「60～70分未満」が28.8%→36.5%と増え、平均は「45.7分」→「49.0分」と長くなっています。

4. 生鮮食品や加工食品を選ぶ時に気を付けていることは何ですか？

— 『生鮮食品』で気を付けていることは、「賞味期限・消費期限」(75.0%)が最多
前回調査と比較して、トップは「賞味期限・消費期限」(74.0%→75.0%)で変わらず
「原産地」(33.0%→61.3%)が増、「価格」(71.8%→62.3%)や「旬」(35.3%→13.3%)が減
— 『加工食品』で気を付けていることも、「賞味期限・消費期限」(79.5%)が最多
“おいしさ”より、“食の安全”を優先する消費者が増加傾向

1) 生鮮食品で気を付けていること

『生鮮食品』を選ぶ時、特に気を付けている点を3つまであげてもらったところ、「賞味期限・消費期限」(75.0%)をあげる人が最も多く、4人に3人の割合となっています。続く「価格」(62.3%)、「原産地」(61.3%)、「見た目の新鮮さ」(58.3%)なども半数以上の人があげています。

◆前回調査比較：「原産地」(33.0%→61.3%)が大幅にアップ
「賞味期限・消費期限」(74.0%→75.0%)のトップは変わりませんが、「原産地」(33.0%→61.3%)が大幅にアップしました。また、「添加物・農薬」(18.5%→24.8%)に対するこだわりもやや強くなった一方で、「価格」(71.8%→62.3%)、「旬」(35.3%→13.3%)は減少傾向にあります。

2) 加工食品で気を付けていること

『加工食品』を選ぶ時に気を付けている点では、「賞味期限・消費期限」(79.5%)が多く、以下「価格」(50.8%)、「添加物」(43.0%)、「材料の原産地」(36.3%)、「原材料」(35.0%)が続きます。

◆前回調査比較：“おいしさ”より、“食の安全”を優先する消費者が増加傾向
今回同様、「賞味期限・消費期限」(86.0%)、「価格」(62.8%)、「添加物」(46.8%)がトップ3です。前回に比べて「おいしさ」(40.0%→29.8%)の割合が減り、「材料の原産地」(11.5%→36.3%)や「原材料」(26.3%→35.0%)の割合が増えるなど、“おいしさ”より、“食の安全”を優先する消費者が増加傾向にあります。

5. 料理や食品、購入するほうが多いですか？ 自分で作るほうが多いですか？

— 料理は「購入」より「自分で作る」が増加傾向

購入することが多い料理・食品は、「ドレッシング」(79.5%)、「だし」(73.0%)

作ることが多い料理・食品は、「みそ汁」(92.3%)、「きんぴらごぼう」(85.3%)

1) 購入することが多い料理・食品：「ドレッシング」(79.5%)、「だし」(73.0%)

購入することが多い料理・食品は、「ドレッシング」(79.5%)と「だし」(73.0%)が7割以上、以下「漬物」(49.5%)、「カレー(レトルト)」(38.5%)が続きます。

2) 作ることが多い料理・食品：「みそ汁」(92.3%)、「きんぴらごぼう」(85.3%)

最も作ることが多い料理・食品は「みそ汁」(92.3%)、以下「きんぴらごぼう」(85.3%)、「おにぎり」(85.0%)、「おでん」(82.0%)、「ハンバーグ」(80.8%)などが上位です。

◆前回調査比較：自分で作る派（代表例：きんぴらごぼう、おでん、とんかつ）が増加傾向

前回は、購入することが多いのは「ドレッシング」(79.3%)、「だし」(71.0%)、「漬物」(54.8%)でした。傾向的には、自分で作る料理・食品数の増加が目立ちました。特にその傾向が強いのは「きんぴらごぼう」「おでん」「とんかつ」です。反対に購入が増えた料理・食品では「カレー(レトルト)」が代表例でした。

6. “我が家の味” といえば、どんな料理ですか？

— “我が家の味”、1位「餃子」、2位「肉じゃが」、3位「野菜の煮物」

前回はベスト3は1位「野菜の煮物」、2位「餃子」、3位「肉じゃが」で、傾向は変わらず

“我が家の味”を一品あげてもらいました。その結果、「餃子」(13.0%)が最も多く、以下「肉じゃが」(10.3%)、「野菜の煮物」(8.3%)、「ハンバーグ」(7.8%)、「カレーライス」(7.3%)、「味噌汁」(5.3%)と続いています。

◆前回調査比較：大きな変動なし

前回はベスト3は「野菜の煮物」(43件)、「餃子」(42件)、「肉じゃが」(34件)でした。それ以外も、順位の変動はあるものの、あまり大きな変化はありません。

7. 食品を捨てることについて、どう感じますか？

- 使い切れなかったり、食べ残したりして、捨てる量は「少ない」(58.0%)が過半数
傾向的には、前回に比べて“節約意識”が若干強くなる
- 食品を捨てることは「もったいない」と考える人が大多数(92.8%)
「作った人に申し訳ない」とした人は前回調査より大幅増(29.0%→40.0%)

1) 食材を使い切れなかったり、食べ残したりして捨てる量

食品を捨てる量が、多い方か、それとも少ない方が聞いてみたところ、「やや少ない」(31.0%)、「とても少ない」(27.0%)を合わせた“少ない”(58.0%)という人が過半数を占めています。「普通」も多く、約3割(29.3%)でした。

◆前回調査比較：前回に比べて“節約意識”若干強く

“多い”は12.5%→12.8%と横ばい、“普通”が34.3%→29.3%と5ポイントダウンし、“少ない”が53.3%→58.0%と約5ポイント増加と、前回に比べて“節約意識”が若干強くなりました。

2) 食品を捨てることについてどう感じるか

食品を捨てることについては、ほとんどの人が「もったいない」(92.8%)と感じ、さらに「もっと計画的に購入したい」(60.8%)、「作った人に申し訳ない」(40.0%)などと答えています。「肥料などに加工できるとよい」(26.8%)、「家畜の飼料に利用できるとよい」(14.3%)、「堆肥などに利用したい」(13.5%)と“再利用を”考える人も少なくありません。また、「健康や安全のために仕方がない」(15.8%)という意見もありますが、「特に感じない」(0.3%)人はほとんどいません。

◆前回調査比較：モラルとしての節約意識やエコロジー意識は大幅に向上

「もったいない」(90.3%→92.8%)、「もっと計画的に購入したい」(57.3%→60.8%)、「作った人に申し訳ない」(29.0%→40.0%)などが増えました。また、「肥料などに加工できるとよい」(19.8%→26.8%)、「家畜の飼料に利用できるとよい」(6.8%→14.3%)、「堆肥などに利用したい」(8.3%→13.5%)など、“再利用”意識も強くなっています。

8. 家族揃っての夕食、月に何回くらいですか？

- 家族揃って夕食する頻度「月に1回くらい」(28.5%)が最多、月平均は1.3回
前回は「月に1回くらい」(30.0%)が最多だが、平均は月1.1回→1.3回と若干増加

家族揃って夕食する頻度をみると、「月に1回くらい」(28.5%)が最も多く、以下「月に2~3回くらい」(24.5%)、「2~3ヵ月に1回くらい」(19.3%)が続いています。また、「ほとんどない」という家庭も1割強(13.0%)と少なくありません。平均は「1.3回」です。

◆前回調査比較：月平均回数が「1.1回」から「1.3回」へと増加

前回は「月に1回くらい」(30.0%)が最も多いなど、傾向的には変わらないものの、月の平均回数は「1.1回」から「1.3回」と増えました。

9. 月ごとの食費、平均どのくらいですか？

— 家庭の食費、月「4～6万未満」がボリュームゾーン(37.3%)、平均6万2260円
前回調査比較では、月平均6580円のマイナス、節約志向強まる

家庭の食費は、月に「4～6万円未満」(37.3%)が最も多く、次いで「6～8万円未満」(26.8%)が続
き、「4～8万円未満」がほぼ3分の2(64.0%)を占めます。月当たりの平均は6万2,260円です。

◆前回調査比較：前回平均「6万8840円」から今回「6万2260円」で6580円マイナス

前は「6～8万円未満」(31.8%)が最も多かったのですが、今回は「4～6万円未満」(37.3%)にボリュームゾーンが
シフトしており、平均も「6万8840円」から「6万2260円」と、6580円ダウンしました。

10. 自家生産（家庭栽培）していますか？ している人の食費換算額は？

— 「自家生産していない」人が9割だが、「自家生産」比率は増加(7.3%→10.5%)
自家生産額は平均2万1480円/年、換算額は減少(5,138円→1,790円)

“自家生産”の有無では、「自家生産していない」(89.5%)家庭が9割を占め、「自家生産をしてい
る」家庭は1割(10.5%)です。“自家生産している”家庭の換算額は、「500円未満」(2.5%)から「1万
円以上」(0.5%)と幅が広く、平均は月に1790円、年間で換算すると2万1480円でした。

また、この《自家生産をしている》家庭では、先にみた食費の平均が「5万6790円」で全体平均より
約6000円少なく、自家生産している家庭は“節約意識”も高いことが窺えます。

◆前回調査比較：“自家生産”割合は7.3%→10.5%へ増、換算額は5138円→1790円へ減

“自家生産している”割合は7.3%→10.5%と増えました。しかし、食費換算額は「5,138円」から「1,790円」と大幅に減
少しています。

II.食に関する意識

1. 食に関して、重視していることや関心があることは何ですか？

- 「栄養」(78.0%)が第一。次いで、「おいしさ」(64.8%)、「家族の好み」(55.8%)
重視度アップ:「栄養」(+5.2%)、「おいしさ」(+8.0%)、「安全性」(+11.5%)
重視度ダウン:「家族の好み」(-6.7%)、「経済性」(-3.2%)、「バラエティー」(-8.5%)
- “食”で関心があるのは、やはり「献立・レシピ」(84.5%)が断然トップ
前回調査と比較すると、「安全性」(36.8%→48.5%)、「産地」(10.0%→24.5%)が急増

1) 毎日の食生活で特に重視していること

毎日の食生活で特に重視していることとしては、何より「**栄養**」(78.0%)が第一。そして、「**おいしさ**」(64.8%)、「**家族の好み**」(55.8%)が続く形で**トップ3**を形成しました。

◆前回調査比較:「**安全性**」16.8%→28.3%増加、「**バラエティー**」20.3%→11.8%減少

前回も「**栄養**」(72.8%)が第一をはじめ、上位にあげられている項目は変わりませんが、重視度(比率)の増減が目立ちます。特に「**安全性**」は11ポイント以上アップしています。重視度がアップしている項目は、「**栄養**」72.8%→78.0%(+5.2%)、「**おいしさ**」56.8%→64.8%(+8.0%)、「**安全性**」16.8%→28.3%(+11.5%)など、重視度がダウンしている項目は、「**家族の好み**」62.5%→55.8%(-6.7%)、「**経済性**」32.0%→28.8%(-3.2%)、「**バラエティー**」20.3%→11.8%(-8.5%)です。嗜好性から**栄養**や**安全性**へと、消費者の意識が変化した様子が窺えます。

2) 食について関心が高い事項

食についての関心では、「**献立・レシピ**」(84.5%)が**断然トップ**で、献立を考える苦勞が窺えます。以下、「**からだに良い食べ物**」(62.8%)、「**調理の技術・コツ**」(58.8%)、「**栄養**」(52.0%)、「**安全性**」(48.5%)、「**おいしい食品・店**」(47.0%)など、さまざまな情報にアンテナを張っているようです。

◆前回調査比較:「**安全性**」(36.8%→48.5%)、「**産地**」(10.0%→24.5%)が急増

前回も今回同様、**トップ3**は「**献立・レシピ**」(77.5%)、「**からだに良い食べ物**」(56.3%)、「**調理の技術・コツ**」(51.3%)でした。あらゆる項目で前回に比べて意識が高まっていますが、特に「**安全性**」(36.8%→48.5%:+11.7%)と「**産地**」(10.0%→24.5%:+14.5%)のアップが目立ちます。

2. 食に関する感謝の気持ちを持っていますか？

- 食に関する“感謝の気持ちを持っている”人は非常に多い(96.3%)
理由1位「**おいしいものがおいしく食べられることに対して**」(74.0%)
2位「**農業・漁業・酪農従事者に対して**」(59.7%)、3位「**自然の恩恵に対して**」(57.4%)

食に関する感謝の気持ちについて、「**とても感謝の気持ちがある**」(47.0%)、「**まあ感謝の気持ちがある**」(49.3%)を合わせると、**ほぼ全員が“感謝の気持ちがある”**(96.3%)と答えています。

感謝の気持ちの具体的内容としては、「**おいしいものがおいしく食べられることに対して**」(74.0%)、「**農業・漁業・酪農従事者に対して**」(59.7%)、「**自然の恩恵に対して**」(57.4%)、「**食べ物のいのちを食べることに対して**」(46.0%)などがあげられています。

3. 食の安全に関心がありますか？

— 食の安全に“関心がある”が 95.0%と圧倒的多数派

前回調査と比較すると、「とても関心がある」が 2 倍近く増加 (16.3%→33.5%)

食の安全への関心、1 位「食品添加物」(83.7%)、2 位「輸入食品」(73.4%)

1) 食の安全に関心があるか

食の安全に「とても関心がある」(33.5%)、あるいは、「まあ関心がある」(61.5%)を合わせて、**ほぼ全員が“関心がある”(95.0%)**と答えています。

◆前回調査比較：「とても関心がある」(16.3%→33.5%) 倍増

「とても関心がある」(16.3%→33.5%)が 2 倍近く増え、“関心がある”割合でも 88.8%→95.0%とアップしています。

2) 具体的には何に関心があるか

“関心がある”人(380名)が具体的にはどんなことに関心があるのかをみると、「**食品添加物**」(83.7%)が最も多く、以下、「**輸入食品**」(73.4%)、「**残留農薬**」(57.9%)、「**食品偽装**」(57.1%)、「**遺伝子組換え食品**」(48.2%)、「**BSE(狂牛病)**」(45.8%)が続いています。

◆前回調査比較：2 位が「BSE(狂牛病)」(62.5%)から「輸入食品」(73.4%)に

同じく「食品添加物」(85.9%)がトップでしたが、2 位は「BSE(狂牛病)」(62.5%)に、その他、「食品偽装」(57.1%)4 位、「異物混入」(38.9%)7 位など、近年の食品事故や事件の影響が顕著に表れています。

4. 安全な食を守るため、心がけていることや実行していることはありますか？

— 「原産地を確認する」(79.3%)、前回の 47.8%から約 3 割増でトップに

2 位の「なるべく手作りする」(61.3%→68.5%)も増加するなど、全般に意識は向上

安全な食を守るため、日頃心がけている・実行していることとしては、「**原産地を確認する**」(79.3%)が最も多く、「**なるべく手作りする**」(68.5%)、「**食品の表示をよく読む**」(65.5%)、「**気になる添加物を使っている食品は利用しない**」(46.8%)、「**地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する**」(32.5%)などがあげられました。

◆前回調査比較：前回 3 位の「原産地を確認する」(47.8%→79.3%)が大幅増でトップに

前回 3 位にランクされていた「原産地を確認する」(47.8%→79.3%: +31.5%)が大幅に比率を伸ばし、今回トップになっているのが注目されます。前回 1 位だった「なるべく手作りする」(61.3%→68.5%)は、今回は 2 位でしたがやはり増加するなど、あらゆる項目が前回より伸びており、“安全な食”に対する意識の高まりを窺わせます。

5. “出来合いの惣菜”について、どう思いますか？

- 肯定:1位「すぐ食べられて便利」(79.8%)、2位「少量欲しい時によい」(46.0%)
- 否定:1位「価格が高い」(49.8%)、2位「味が濃い」(39.5%)
前回より「価格が高い」「味が濃い」「カロリーが高い」などネガティブ項目に上昇目立つ

“出来合いの惣菜”については、**圧倒的な評価で「すぐ食べられて便利」(79.8%)が1位を獲得**、2位「価格が高い」(49.8%)、3位「少量欲しい時によい」(46.0%)が続きます。「自分では作り難い料理が食べられる」(43.0%)など評価も高い一方で、「価格が高い」(49.8%)、「味が濃い」(39.5%)、「カロリーが高い」(28.3%)などのネガティブな意見も少なくありません。

◆前回調査比較：「価格が高い」(41.0%→49.8%)、「味が濃い」(29.3%→39.5%)

前は「すぐ食べられて便利」(73.8%)、「少量欲しい時によい」(55.3%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(45.3%)がトップ3でした。今回は、「価格が高い」をあげる割合が41.0%から49.8%と9ポイント近く増え、第2位にランクされています。そのほか「味が濃い」(29.3%→39.5%)、「カロリーが高い」(18.3%→28.3%)、「どんな材料かわからず不安」(10.8%→15.3%)など、否定的な項目で比率がアップしているのが目を引きました。

6. 食生活の望みは何ですか？、そのうち実現できているものは何ですか？

- 食生活への望み、1位「料理のレパートリーが多い」(85.0%)
前回との比較では、「なるべく手作りする」(70.5%→82.3%)大幅に増えて2位に
- 食生活の実現度、1位「なるべく手作りする」(76.3%)
前回比較では、トップ3の順位は変わらずも、上位項目の比率はやや上昇傾向
- 希望者が多い「料理のレパートリーが多い」は、実現は難しく、約1割(13.2%)

1) 自分自身や家族の食生活について望んでいること

自分自身や家庭の食生活について望みは、**最も多いのが「料理のレパートリーが多い」(85.0%)**、で、以下「なるべく手作りする」(82.3%)、「料理が上手」(78.8%)、「安全な食品を利用する」(74.5%)などが続きます。

◆前回調査比較：「なるべく手作りする」が2位に浮上するなど、手作り傾向強まる

前回の“望んでいること”のトップ3は、「料理のレパートリーが多い」(79.3%)、「料理が上手」(75.8%)、「なるべく手作りする」(70.5%)と、「なるべく手作りする」が3位から2位になりました。また、「食事作りから解放される」(52.0%→43.0%)と「食べ歩きをする」(42.8%→28.5%)は減少傾向を示しています。

2) 食生活の望み実現度

食生活の望みの実現度としては、「**なるべく手作りする」(76.3%)が最も多く**、以下「夫や子どもの弁当を作る」(51.5%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(43.3%)、「食事の会話が多い」(41.0%)などが実現できているようです。

ちなみに、**最も希望が高かった「料理のレパートリーが多い」に関しては、実際に実現できている人は約1割(13.2%)しかいませんでした。**

◆前回調査比較：「なるべく手作りする」(74.3%→76.3%)など、いずれも比率は上昇

前回の“実現していること”のトップ3は、「なるべく手作りする」(74.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(43.8%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(42.0%)で、今回とまったく同じですが、比率はいずれも上昇しています。

III 食育に関する意識と実態

1. 料理や食についての知識、誰に教わりましたか？

- 料理や食についての知識は、「母親」(86.5%)に教わったがやはり圧倒的多数派
前回は今回同様、「母親」(75.0%)、「テレビ番組」(68.3%)、「雑誌」(59.5%)がトップ3

料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何からとり入れてきたかについては、「母親」(86.5%)が最も多く、2位「テレビ番組」(73.8%)、3位は「雑誌」と「本」(各 59.0%)が同率で並びました。

◆前回調査比較：トップ3に変化はないが、「インターネット」が5.3%→25.5%と急増

前回は今回同様、「母親」(75.0%)、「テレビ番組」(68.3%)、「雑誌」(59.5%)がトップ3でした。大きな変化としては「インターネット」が5.3%から25.5%に急増した点があげられるでしょう。

2. 食べ物や食事のことで子どもに言い聞かせていることはありますか？

- 食まわりの“しつけ”は「食べ物を粗末にしない」が最多(84.8%)
前回調査のトップ「いただきます、ごちそうさま、と言う」は今回3位(79.8%)

食事のしつけでは、「食べ物を粗末にしない」(84.8%)が最も多く、以下、「好き嫌いをしない」(82.5%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(79.8%)、「食卓に肘をつかない」(69.8%)など、“食の有り難さ”や食事・食卓のマナーをしっかりと教えている母親が多いようです。

◆前回調査比較：前回調査では聞いていない「食事中に携帯電話を使わない」は約3割(33.3%)

前回のトップ3は、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(73.3%)、「食べ物を粗末にしない」(69.5%)、「好き嫌いをしない」(67.0%)で、順位の違いはありますが、トップ3は今回も同じです。なお、前回調査では聞いていなかった、「食事中に携帯電話を使わない(通話・メール)」は約3割(33.3%)でした。

3. 食べ物や食事について、何か子どもに手伝わせていますか？

- 食べ物や食事子どもに“手伝いをさせている”人は半数以上(55.8%)
- 子どもの「食事の支度」の具体的内容は、1位「野菜などの皮をむく、切る」(79.4%)
前回調査との比較では、「野菜などの皮をむく、切る」(71.4%→79.4%)が2位から1位に
- 子どもに「食事の支度」をさせた年齢は「4～6歳」が最多(45.7%)、平均は6.0歳
前回調査と比較すると、平均6.8歳→6.0歳へと低年齢化

1) 食べ物や食事に関して子どもに参加・実行させていることは何か

過半数(55.8%)の母親が、「食事後の食器を運ぶ」(79.5%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食品の買い物」(58.8%)、「食事の支度」(55.8%)などで、子どもに家事に参加・手伝わせています。

◆前回調査比較：「食事後の食器を運ぶ」、「食卓の準備」、「食事の支度」のトップ3変わらず

前は「食事後の食器を運ぶ」(75.0%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食事の支度」(52.5%)がトップ3で、順位の違いはありますが、上位にあげられている項目は今回と同じです。全般的に前回より今回の方が高率を示している項目が多く、前回より子どもにさまざまなことをさせていることが窺えます。

2) 子どもがする「食事の支度」の具体的内容

「食事の支度」の具体的な内容は、「野菜などの皮をむく、切る」(79.4%)、「お米をとぐ」(69.1%)、「料理を作る」(64.6%)、「野菜などを洗う」(61.9%)などです。

第一子が初めて作った料理は、「カレーライス」(20.8%)、「オムレツ・卵焼き」(11.8%)、「サラダ」(9.0%)がトップ3でした。

◆前回調査比較：「野菜などの皮をむく、切る」(71.4%→79.4%) 2位から1位に

前回最も多かった「お米をとぐ」(74.8%→69.1%)は今回は2位になり、前回2位の「野菜などの皮をむく、切る」(71.4%→79.4%)が1位になりました。全般的に前回より今回の方が高率を示している項目が多く、前回に増して子どもにさまざまな「食事の支度」をさせていることが窺えます。

3) 「食事の支度」に第一子に参加させた年齢

“食事の支度”をさせたという人(223名)に、第一子を、“食事の支度”に参加させるようになった年齢を聞いてみたところ、「4～6歳」(45.7%)が最も多く、次いで「3歳以下」(19.7%)となっており、“小学校入学前までに”参加させた人が65.5%でした。次いで「10～12歳」(17.5%)、「7～9歳」(15.2%)が続き、平均は6.0歳です。

◆前回調査比較：「食事の支度」をする平均年齢は6.8歳→6.0歳へ低年齢化

「3歳以下」、あるいは「4～6歳」など“小学校入学前までに”参加させた割合が前回(51.9%)より今回(65.5%)の方が14ポイント近く高くなっています。ちなみに、平均をみると「6.8歳」→「6.0歳」と、今回の方が早くなっています。

IV. 日本の農業に関する意識と実態

1. 日本の食糧自給率を知っていますか？

- 食糧自給率はどれくらいだと思うか、4人に1人が正解の「40%」(26.8%)
前回調査と比較すると、正解の「40%」は22.5%→26.8%と正解率が4.3ポイントアップ
- 日本の目指すべき自給率は、「3分の2くらい自給すべき」が約6割(58.0%)
前回調査と大きく傾向変わらず、「3分の2くらい」(55.3%→58.0%)が最多

1) 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか

現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか聞いたところ、**正解の「40%」(26.8%)をあげた人は4人に1人強**の割合でした。半数以上(53.0%)が“30%以下”の範囲、1割強(12.5%)が“50%以上”の範囲を答えています。

◆**前回調査比較：正解率 26.8%で前回から 4.3ポイントアップ**
正解の「40%」は22.5%→26.8%と、正解率が4.3ポイントアップしています。

2) 日本はどの程度食糧を自給すべきか

日本は、**どの程度食糧を自給すべきか、の質問には「3分の2くらい」という人が6割弱(58.0%)**を占め、次いで「半分くらい」が3割(30.0%)、「100%」という人も1割弱(7.8%)みられます。中には、「3分の1くらい」(1.5%)という人も少数います。

なお、前項で正解の「40%」と答えた人(107名)は、7割強が「3分の2くらい」(72.0%)、1割近くが「100%」(7.5%)と答えています。

◆**前回調査比較：前回同様に「3分の2くらい」(55.3%→58.0%)が最多**
前回は「3分の2くらい」(55.3%→58.0%)が最も多く、次いで「半分くらい」(24.8%→30.0%)が続いています。

2. 農畜水産物の将来について、何か要望はありませんか？

— これからの“農畜水産物”に対する要望は、1位「安全な」(98.8%)がほぼ全員
前回調査から、比率のアップしている項目が多数に

これからの“農畜水産物”に対する要望では、ほぼ全員が「安全な」(98.8%)をあげています。

以下「おいしい」(76.8%)、「安い」(52.8%)、「抗生物質を使っていない」(52.3%)、「価格変動の少ない」(50.8%)などが過半数を占めます。「減農薬の」(49.3%)、「無農薬の」(41.0%)、「有機栽培の」(38.3%)など“安全性”にかかわる要望は全般に多く、“食の安全”に対する要望の高まりを窺わせます。

◆前回調査比較：比率がアップしている項目が多数

前回のトップ3は「安全な」(94.0%)、「おいしい」(67.0%)、「安い」(53.0%)で、上位にあげられている項目は前回と変わりません。また、「安い」(53.0%→52.8%)、「価格変動の少ない」(49.3%→50.8%)など“価格に関する要望”は前回と同程度ですが、そのほかは前回より比率がアップしている項目が多いが目立ちます。

3. ここ1年間の食関連のニュースで印象に残っていることは？

— 印象に残った“食”関連ニュースは、1位「賞味期限・消費期限改ざん」(76.5%)
以下、2位「産地偽装」(66.8%)、3位「原材料偽装」(59.5%)と続く
前回調査の1位「農作物の盗難」、2位「米不作、新米値上がり」から大きく様変わり

ここ1年間の“食”に関するニュースで印象に残っていることを5つまであげてもらったところ、「賞味期限・消費期限改ざん」(76.5%)が最も多く、以下「産地偽装」(66.8%)、「原材料偽装」(59.5%)、「事故米の不正転売」(35.8%)など“食にかかわる不祥事”が上位を占めています。以下、「BSE(狂牛病)」(34.3%)、「弁当男子・水筒男子」(33.8%)、「輸入食品の安全性」(31.5%)が3割台で、「クロマグロ漁獲枠規制」(26.8%)、「大型クラゲ大繁殖」(25.8%)、「トクホ(特定保健用食品)認定取り消し」(24.0%)、「弁当・おにぎりの低価格競争激化」(24.0%)が2割台で続いています。

◆前回調査比較：“生活費に直接影響する問題”から“食の安全に関わる問題”に様変わり

この調査項目はその時代におきた事件を反映するので、前回調査の1位「農作物の盗難」、2位「米不作、新米値上がり」、3位「コイヘルペスウィルス病」から大きく様変わりしています。傾向としては、前は“生活費に影響する問題”が上位にランクインしていましたが、今回は“食の安全、とりわけ表示の偽装・改ざん”に関連するテーマが上位を占めています。

<本件に関するご照会先>

農林中央金庫

広報部 : 平井、長谷川

〒100-8420 東京都千代田区有楽町1-13-2

DNタワー21 (第一・農中ビル)

TEL. 03-5222-2017 / FAX. 03-3213-5276